

EPSON
EXCEED YOUR VISION

2013年度(2014年3月期) 第1四半期 決算説明会

2013年7月31日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2013. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

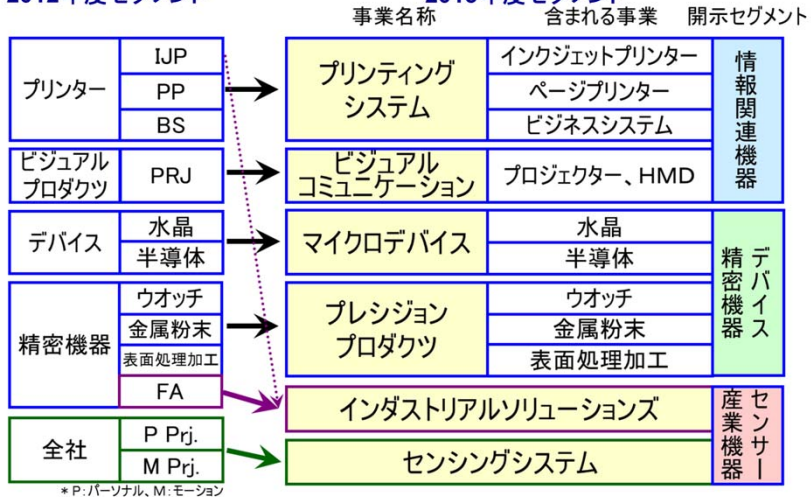
比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

開示セグメントの変更について

SE15後期 新中期経営計画の事業戦略にもとづき、
将来にわたっての成長領域を再定義するとともに各領域における取組みを、
より明確にして加速させるために、2013年度から組織体制を整える

2012年度セグメント

2013年度セグメント



- 2013年度予想の比較説明においては、2012年度のセグメント損益もあわせて補正
- 事業譲渡をした光学事業は、「全社セグメント」に含まれる

2

■ 開示セグメントの変更内容

1) 2013年度 第1四半期決算

2) 2013年度 業績予想

決算ハイライト（第1四半期決算）



(億円)	2012年度		2013年度		増減	
	1Q実績	%	1Q実績	%	増減額	増減率
売上高	1,863	-	2,201	-	+338	+18.2%
営業利益	△161	-8.6%	80	3.6%	+241	-
経常利益	△164	-8.8%	48	2.2%	+213	-
税引前利益	△319	-17.1%	32	1.5%	+351	-
四半期純利益	△344	-18.5%	1	0.1%	+345	-
EPS	△192.67円		0.70円			
換算 レート	USD	80.20円	98.76円			
	EUR	102.91円	128.95円			

4

■ 2013年度 第1四半期の実績

- 売上高は、前年同期比 338億円増収の 2,201億円、
営業利益は 241億円増益の 80億円、
四半期純利益は 345億円の増益で 1億円の黒字。

- また、4月30日に発表した前回予想のベースとなる、
第1四半期の社内計画に対しては、
情報関連機器セグメント、デバイス精密機器セグメントが
堅調に推移したことに加え、円安の効果もあり、
売上高ならびに各段階利益は、計画を大幅に上回る結果となった。

- 情報関連機器、デバイス精密機器を中心に堅調、円安効果もあり売上高、ならびに各段階利益において計画を上回った

情報関連機器セグメント

インクジェットプリンター事業

- 日本、欧州市場回復遅れ、北米のチャネル納入期ずれで本体数量計画未達
- 北米におけるオフィス向けは堅調、新興国向け大容量インクタンクモデルは計画比増
- 消耗品売上は日本未達、一方で欧州堅調、北米はオフィス向け本体のMIF増加の効果により計画比増
- 本体価格施策の継続推進もあり、売上高・営業利益ともに計画を上回った

ビジネスシステム事業

- SIDMは中国徴税需要が戻る中で、生産遅れによる供給不足
- POS関連製品は、中国市場の成長鈍化などの影響
- 為替効果により売上高は上回ったものの、営業利益は計画並み

5

■ 第1四半期業績のポイント

- インクジェットプリンター事業では
本体は、日本や欧州市場の回復遅れや、北米で大口のチャネル納入が期ずれしたことなどもあり、本体販売数量は未達となったが、北米におけるオフィス向けは堅調だったことや、新興国向け大容量インクタンクモデルが社内計画を上回るなど、戦略的に取り組んできた領域は、堅調に推移。
- また、消耗品売上は、日本市場では未達となったものの、欧州が堅調だったことに加え、北米においてはオフィス向け本体のMIF(市場における稼働台数)増加の効果により、計画を上回った。
- 加えて、本体の価格維持施策を継続的に推進したこともあり、売上高、営業利益ともに社内計画を上回った。
- ビジネスシステム事業は、
SIDMが中国徴税システムの需要が戻る中で、中国の生産現地法人における労働力不足に起因する供給不足があったことや、POS関連製品が中国市場の成長鈍化などの影響を受けた。
その結果、為替効果もあり売上高は上回ったものの、営業利益は社内計画並み。

ビジュアルコミュニケーション事業

- プロジェクター市場は欧州を中心に前年割れ
- 当社も欧州や中国などを中心に販売数量は計画未達
- 価格維持、モデルミックス改善、為替効果により売上高・営業利益ともに計画を上回った

デバイス精密機器セグメント

マイクロデバイス事業

- 水晶は計画並み、半導体はモノクロドライバーの需要が堅調に推移

プレジジョンプロダクツ事業

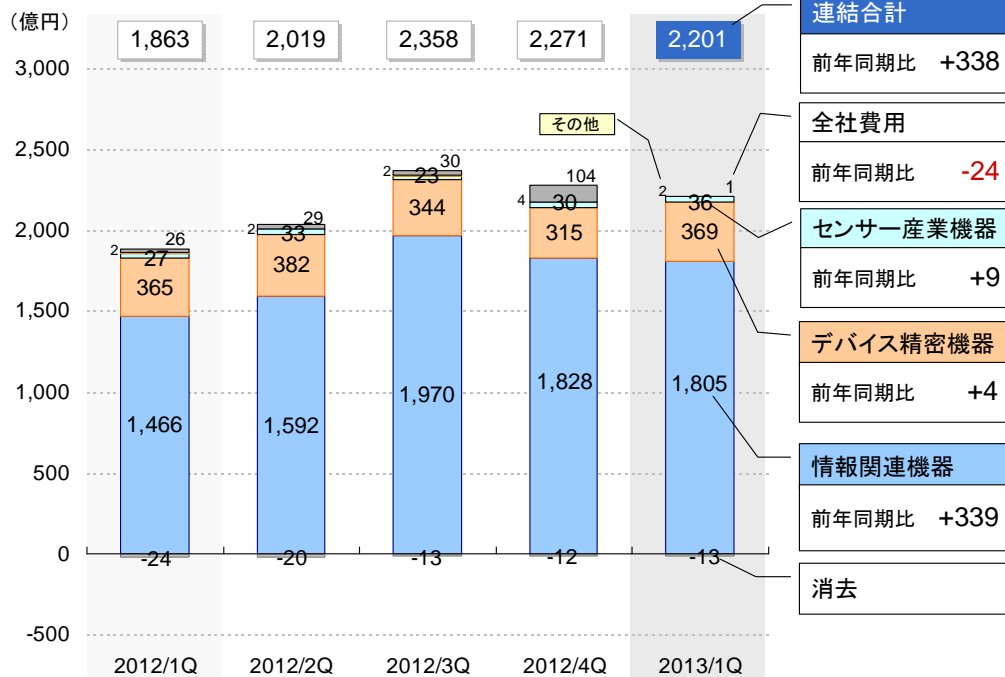
- ウォッチにおいて高価格帯のブランド完成品が計画比増で推移

6

■ 第1四半期業績のポイント

- ビジュアルコミュニケーション事業では、
プロジェクター市場は欧州を中心に前年割れとなる中で、
当社も欧州や中国などを中心に販売数量は計画未達となったが、
価格維持、モデルミックス改善に加え、為替効果もあり、
売上高ならびに営業利益は、社内計画を上回った。
- デバイス精密機器セグメントは、マイクロデバイス事業は、
水晶はデジタルカメラ向けを中心に数量未達となったものの、
為替効果もあり計画並み、
半導体においてモノクロドライバーの需要が堅調に推移したこと、
また、プレジジョンプロダクツ事業において、ウォッチが高価格帯の
ブランド完成品が計画を上回って推移したことにより、
売上高、営業利益ともに社内計画を上回った。

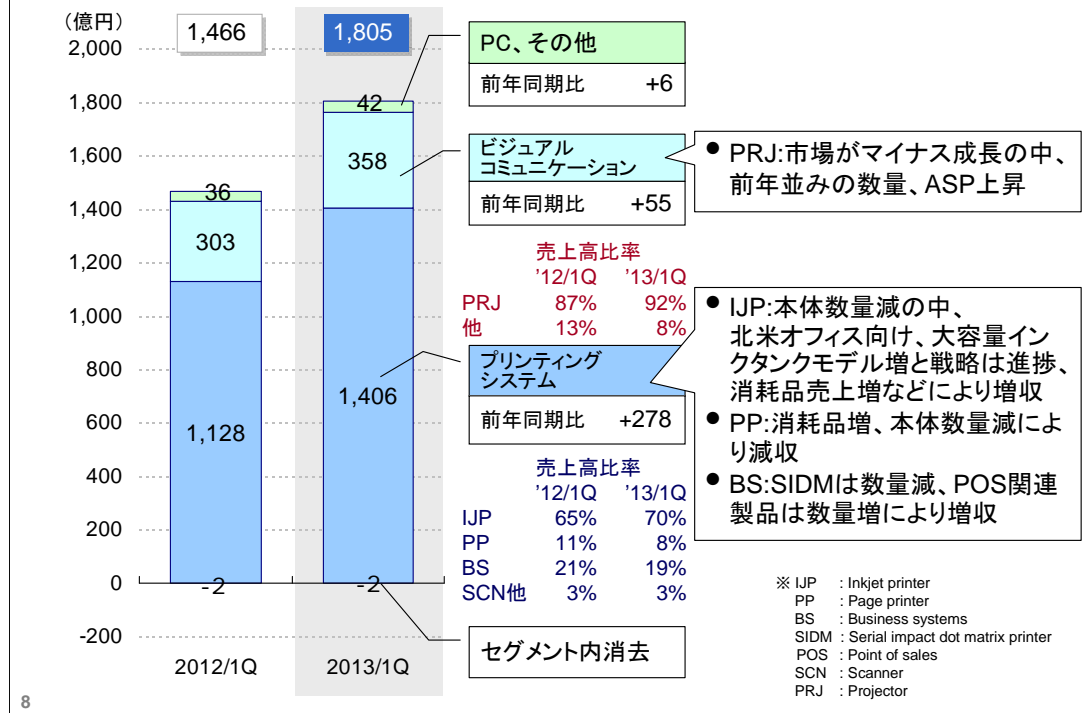
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器は、前年同期比 339億円の増収、デバイス精密機器は、前年同期比 4億円の増収、センサー産業機器は、前年同期比 9億円の増収。
- センサー産業機器は、中国などの新興国や米州向けのロボットを中心に、インダストリアルソリューションズ事業が増収。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、前年同期比で約308億円のプラス影響。

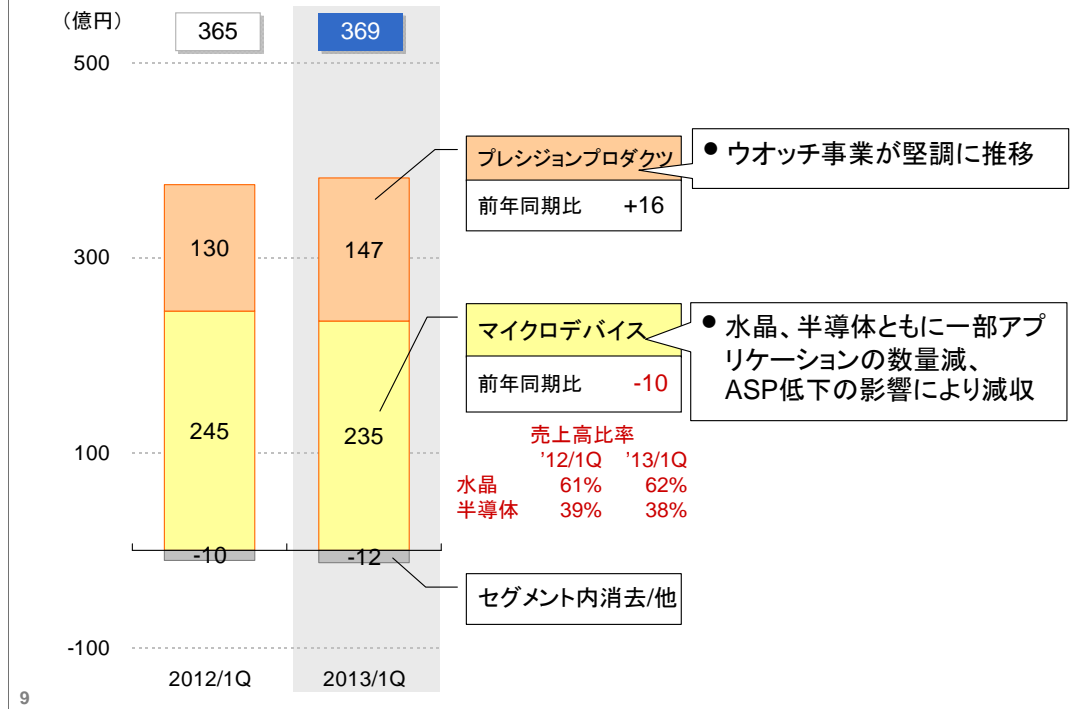
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの 第1四半期 売上高

- 当セグメントでは全ての事業が、円安による効果があった。
- プリンティングシステムは、278億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体は数量減となったものの、製品競争力を背景に販売価格の維持や、モデルミックスの改善に取り組んだこと、ならびに消耗品売上が増加したことにより、増収。
 本体の地域別状況については、日本、欧州市場が前年割れとなる中、当社も日本、欧州市場において数量減となったが、北米市場においてオフィス向けを中心に数量増となったこと、新興国向けに大容量インクタンクモデルの販売を大幅に伸ばすなど、事業戦略を着実に進捗させることができた。
- ページプリンターは、消耗品は増加したものの、低価格モデルの数量の絞り込みを行った結果、減収。
- ビジネスシステムは、SIDMは、中国の徴税需要が戻りつつある中で、製品の供給不足から前年に比べ数量減となったものの、POS関連製品が、北米、欧州、日本における案件獲得による数量増などにより、増収。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場が欧州の景気後退や中国の成長鈍化などにより、市場がマイナス成長となる中、当社においても欧州で数量減となったものの、米州市場においてビジネス向けが堅調に推移したことから販売数量は前期並みを確保し、加えて高価格モデルの比率上昇により、平均販売単価が上昇したことなどから、増収。

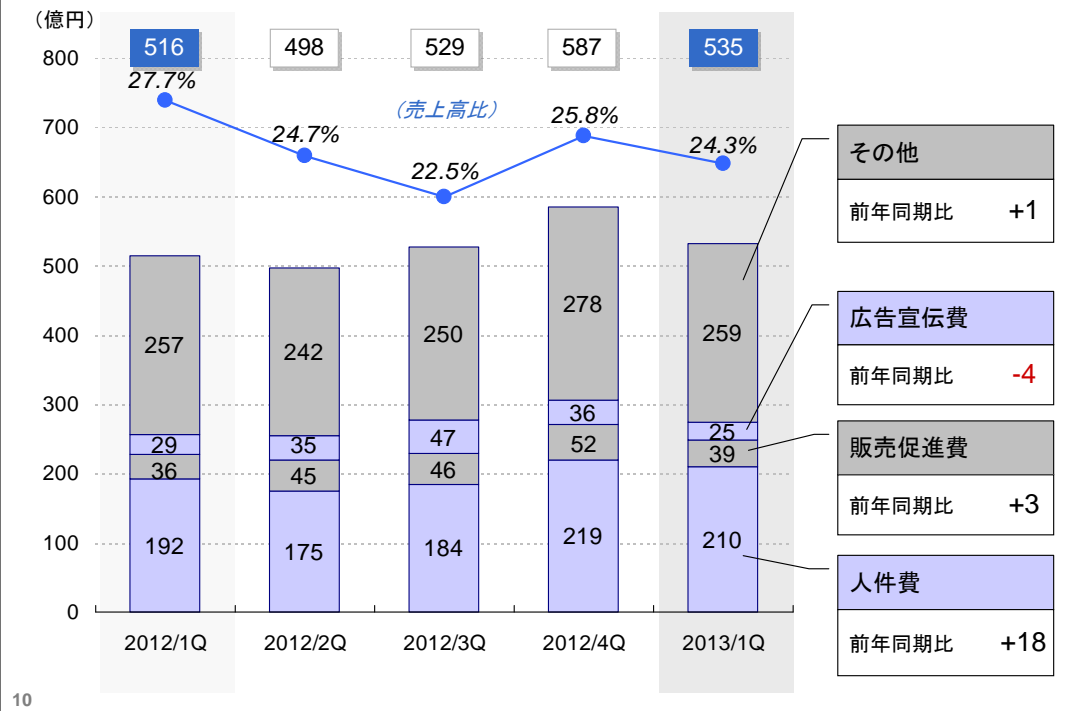
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメントの前年同期比較

- マイクロデバイスは、水晶は、ATにおいてセルラー向けが数量増となったものの、デジタルカメラ向けの数量減やASP低下により、また半導体は、マイコンの価格低下やコントローラーなどの数量減の影響を受け、減収。
- プレジジョンプロダクツは、ウォッチ事業において、高価格帯や国内向け腕時計が堅調に推移し、増収。

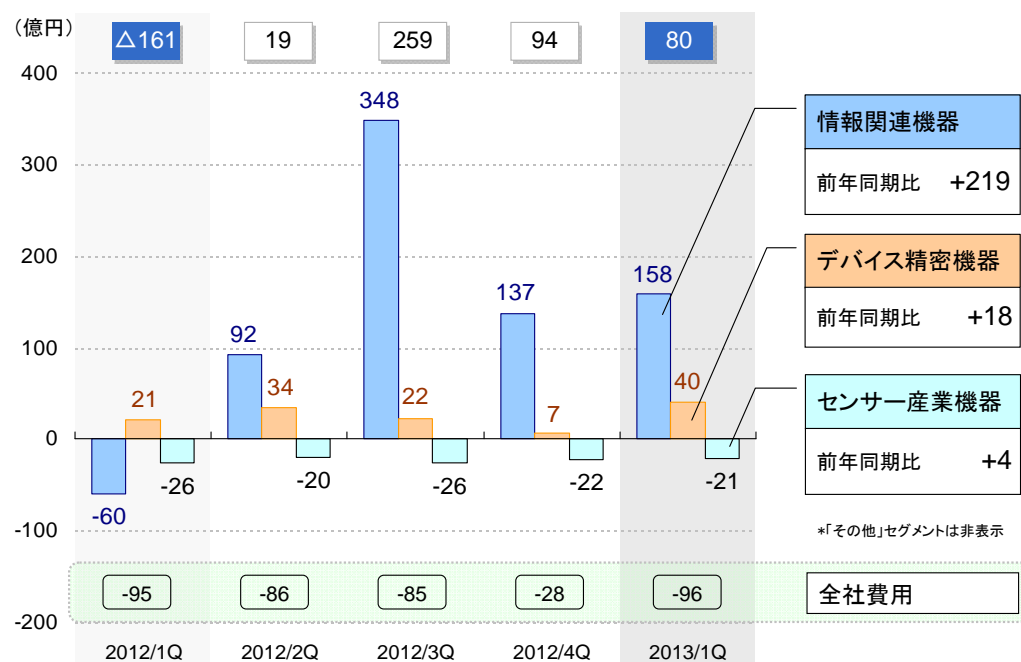
四半期販売費及び一般管理費推移



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 円安による影響もあり、人件費は増加したものの、
 広告宣伝費ならびに販売促進費の効率的な執行に努めたことにより、
 売上高に占める比率は、前年同期を下回る水準となった。

四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別

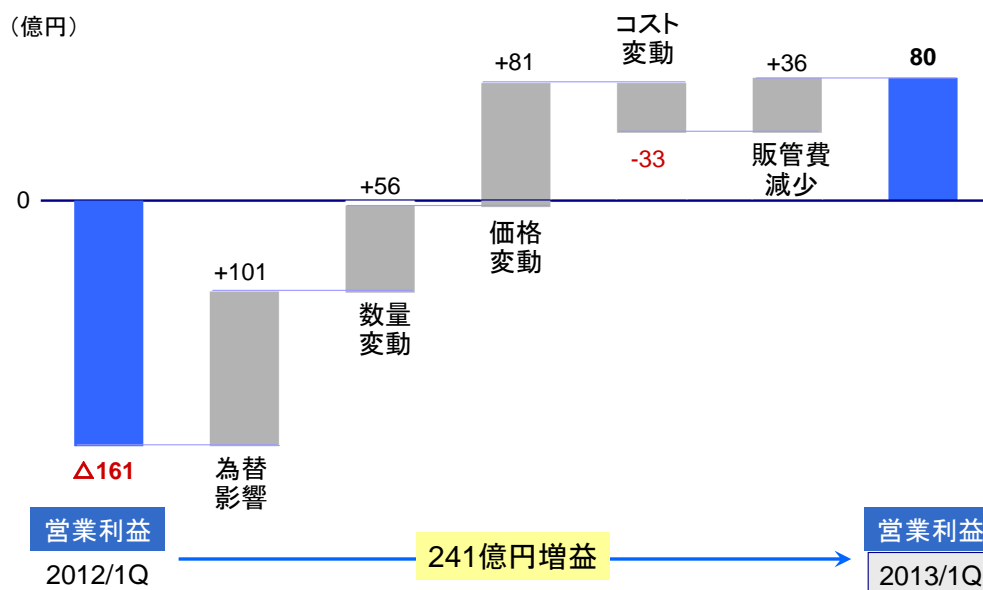


11

■ 事業セグメント別の四半期営業利益推移

- 当四半期は、全社として、為替の円安効果により前年同期比で約101億円のプラス影響があった。
- 情報関連機器は、前年同期比 219億円増益の158億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の増収と、本体の価格維持施策や大容量インクタンクモデルの数量増による増収に加え、低価格モデルの数量絞り込みや、販売数量に見合った適正な生産数量を維持したことなどにより、大幅な増益。
- ビジネスシステム、ならびにビジュアルコミュニケーションも、増収により増益。
- ページプリンターは、減収となったものの、低価格モデルの絞り込み効果や消耗品の増収により増益。
- デバイス精密機器は、プレジジョンプロダクツが、前年並みとなったが、マイクロデバイスが、水晶と半導体ともに要員構造改革の効果などもあり、前年同期比18億円増益の40億円。
- センサー産業機器は、前年同期に比べ収益改善。

営業利益増減要因分析

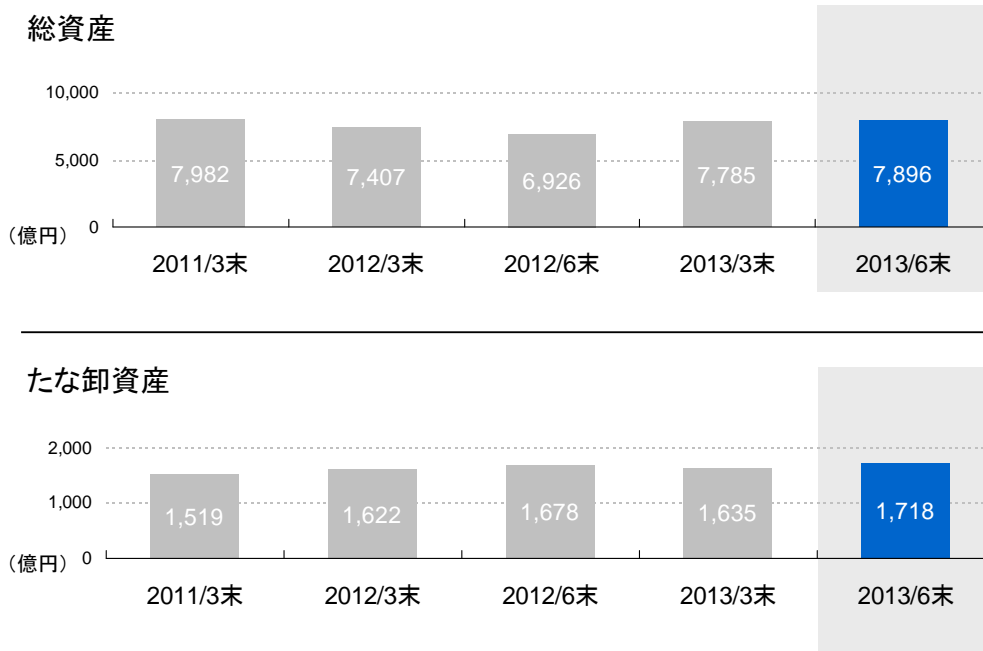


12

■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2012年度 第1四半期の営業損失 161億円 に対し、為替影響、価格変動、数量変動などの増益要因により、四半期営業利益は 80億円。

貸借対照表主要項目推移



13

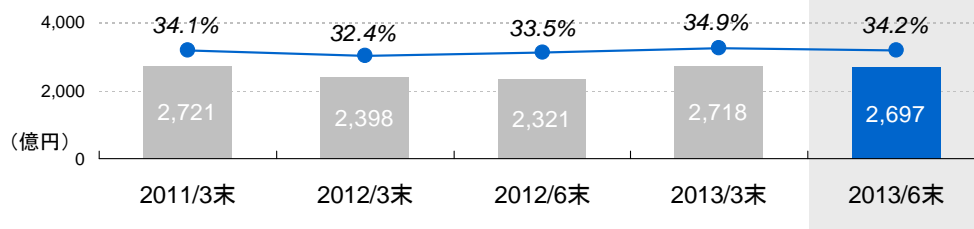
■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、手元資金やたな卸資産の増加などにより前期末に比べ111億円増加。
- なお、たな卸資産については、年末の商戦期に向けた生産数量の増加に加え、為替の影響により評価額は前期末より増加しているが、為替影響を除けば、プリンター、プロジェクターなどの主要製品の在庫は、計画以下の水準に抑えている。

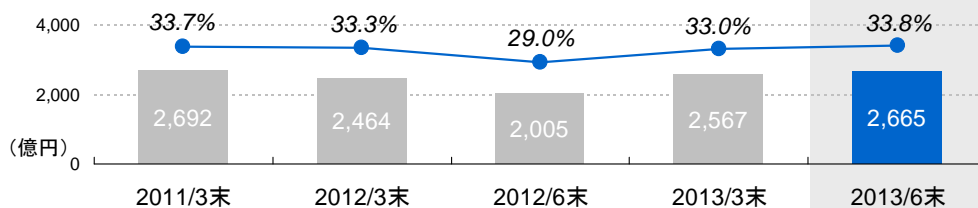
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

14

■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、
借入金の返済を進めたことにより 前期末に比べて 20億円減少し、
総資産の有利子負債依存度は 34.2%。
ネット有利子負債は、791億円となり、前期末から80億円減少。

- 自己資本は、円安による為替換算の影響があり、
前期末に比べ 98億円増加し、その結果、
自己資本比率は 33.8%。

1) 2013年度 第1四半期決算

2) 2013年度 業績予想

2013年度業績予想



(億円)	2012年度		2013年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	4/30予想	%	今回予想	%	前期実績比	4/30予想比
売上高	8,512	-	9,100	-	9,300	-	787 +9.2%	+200 +2.2%
営業利益	212	2.5%	330	3.6%	370	4.0%	+157 +74.1%	+40 +12.1%
経常利益	176	2.1%	300	3.3%	330	3.5%	+153 +87.2%	+30 +10.0%
税引前利益	△34	-0.4%	230	2.5%	260	2.8%	+294 -	+30 +13.0%
当期純利益	△100	-1.2%	130	1.4%	150	1.6%	+250 -	+20 +15.4%
EPS	△56.41 円		72.67 円		83.85 円			
換算 レート	USD	83.11 円	90.00 円		92.00 円		今回予想 2Q以降の予想前提レート USD: 90.00円 EUR: 120.00円	
	EUR	107.14 円	120.00 円		122.00 円			

16

■ 2013年度の業績予想

- 売上高は、前回予想を 200億円上回る 9,300億円、
営業利益は、40億円上回る 370億円、
当期純利益は、20億円上回る 150億円に修正。

- なお、第2四半期以降の予想前提レートは
USDは 90円、ユーロは120円 に、据え置き。

第2四半期以降の業績予想に以下の要素を織り込む

インクジェットプリンター事業

- 価格施策を堅持し収益性を維持しつつ以下の施策を推進
 - ✓ 好調な大容量インクタンクモデルの販売数量を拡大
 - ✓ 消耗品売上に貢献するオフィス領域のMIFを拡大

その他の事業

- 中国の成長鈍化および欧州の回復遅れの影響、スマートフォンやDSCなどの需要減退の影響を織り込む

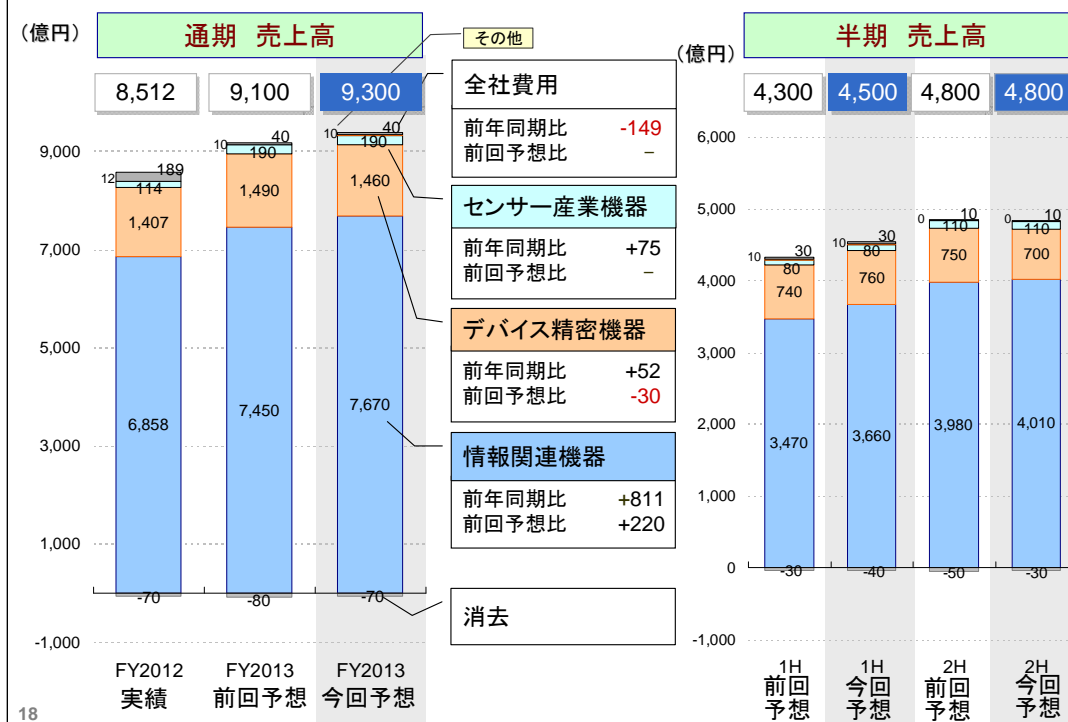
- 上期: 売上高・営業利益ともに上方修正
～ 第2四半期は前回予想並みを想定
- 下期: 売上高は据え置き、各段階利益は下方修正
- 通期: 上期上方修正を受け、売上高・各段階利益を上方修正

17

■ 2013年度業績予想のポイント

- 下期については、インクジェットプリンター事業は、取り組んできた戦略が着実に成果をあげてきているので、その流れを加速させる一方で、一部の事業では環境変化を織り込み、慎重な見方に変えている。

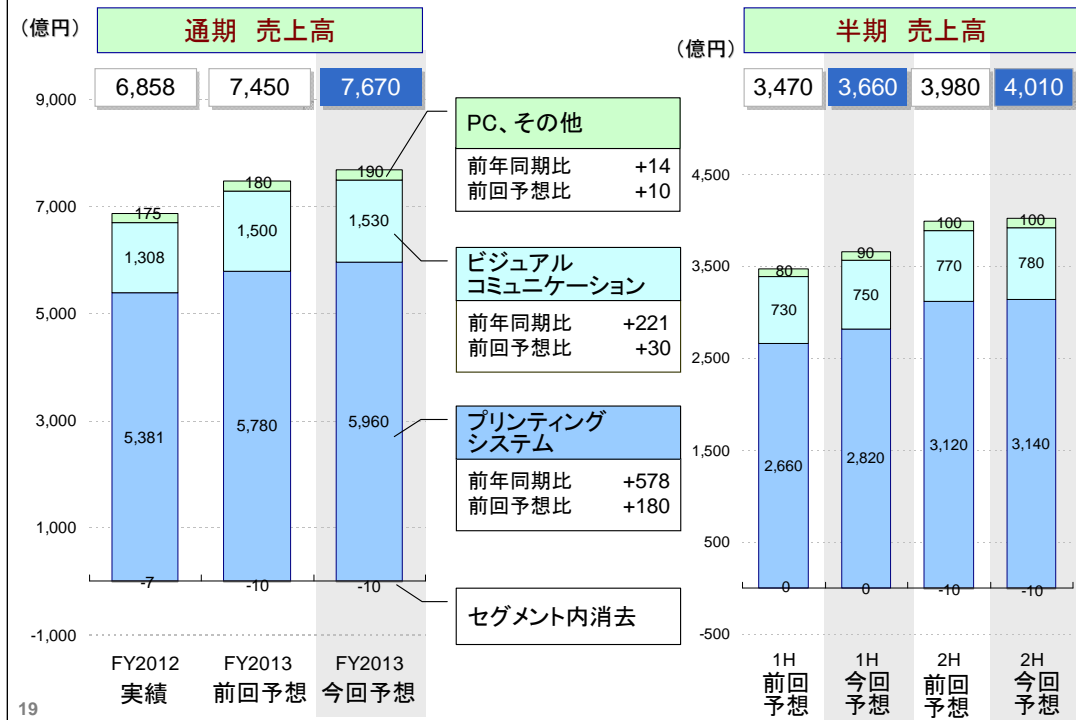
2013年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2013年度の事業セグメント別売上高予想、上期 / 下期別の内訳

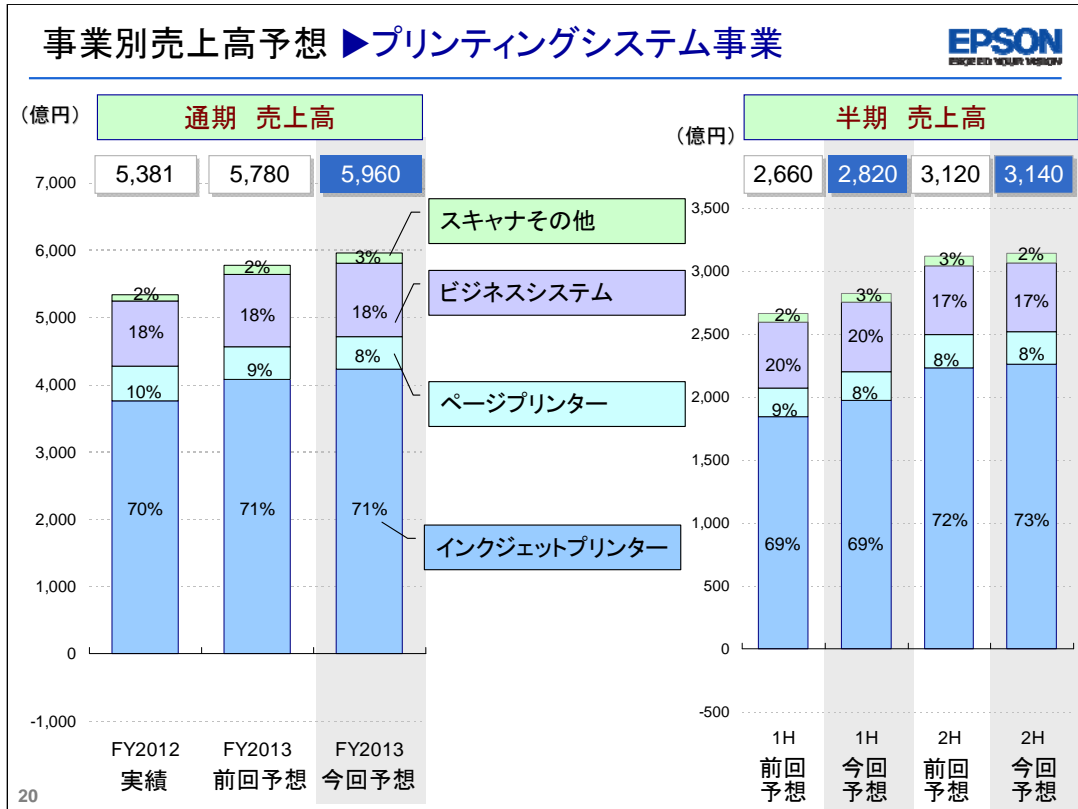
- 上期の会社トータルの業績予想については、第2四半期は前回予想並みを想定しているが、第1四半期実績において情報関連機器ならびにデバイス精密機器が計画を上回ったことから、上方修正。
- 一方、下期については、情報関連機器の売上高を上方修正するものの、デバイス精密機器の下方修正により、会社トータルでは前回予想並みを予想。

事業別売上高予想 ▶情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高予想

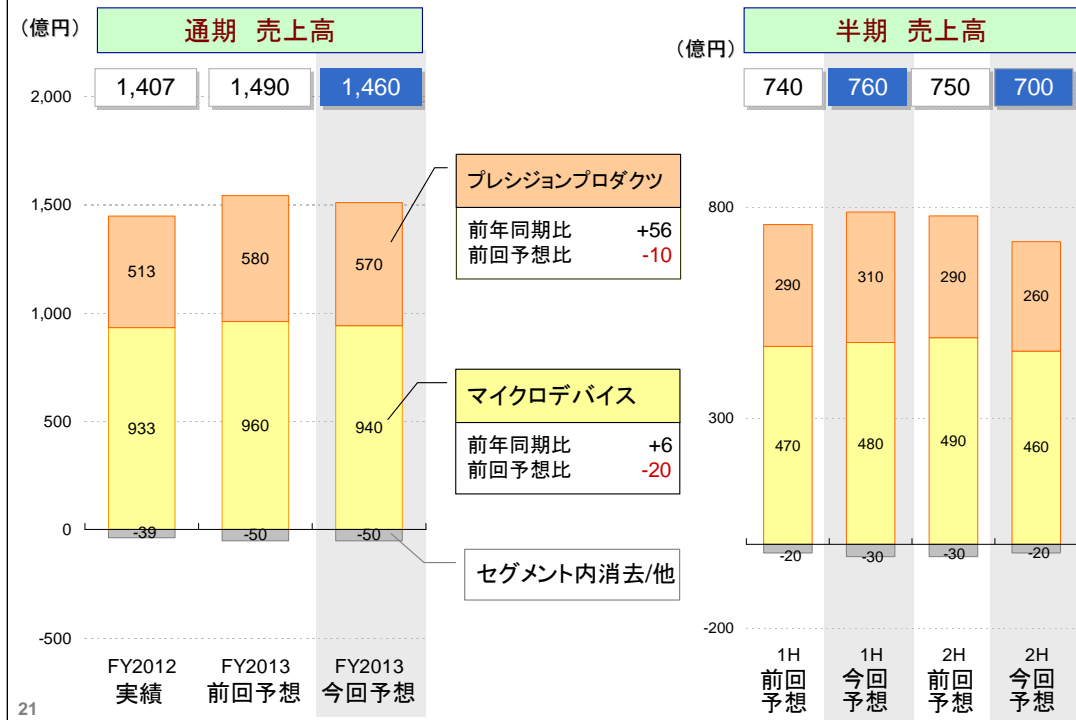
- ビジュアルコミュニケーションは、
前回予想を 30億円上回る、1,530億円を予想。
- プロジェクターが、下期については中国の成長鈍化や欧州の景気回復の遅れによるマーケット成長の鈍化が見込まれることに加え、南米のテnderの時期ずれにより、前回予想から数量の見直しを行うものの、第2四半期以降、案件の確実な取り込みと同時に、短焦点など当社が強みを持つ競争力の高い戦略製品を中心に拡販することで、前年ならびに、市場成長を上回る、数量成長を見込んでいる。



■ プリンティングシステム事業の製品別売上高予想

- ▶ 前回予想を180億円上回る5,960億円を予想。
- ▶ インクジェットプリンターは、エマージング市場は成長するものの、先進国の景気回復遅れから、市場全体では横ばいという認識に変化はない。そうした中、第2四半期以降、引き続き価格維持施策は堅持しつつ、好調な大容量インクタンクモデルの販売数量の拡大に取り組む。加えて、既に前年下期から徐々に実績として現れている、北米のオフィス向けMIF拡大に伴う消耗品の売上高増加を一層加速させるために、第1四半期で得た利益の一部を原資として、北米のオフィス向け本体の販売拡大に、積極的に取り組む。これにより、通期の本体販売数量を、前回予想の前期比マイナス5%から、前期並みに引き上げる。消耗品については、下期は前回予想並みを見込むが、上期の上方修正により、通期予想も上方修正。
- ▶ ビジネスシステムは、SIDMIは生産体制が整ったことから、第1四半期の供給不足を上期中に挽回するとともに、着実に需要に応えることによる売上増を見込むが、POS関連製品は中国、欧州の需要減を見込むことから、通期では前回予想並みを見込む。

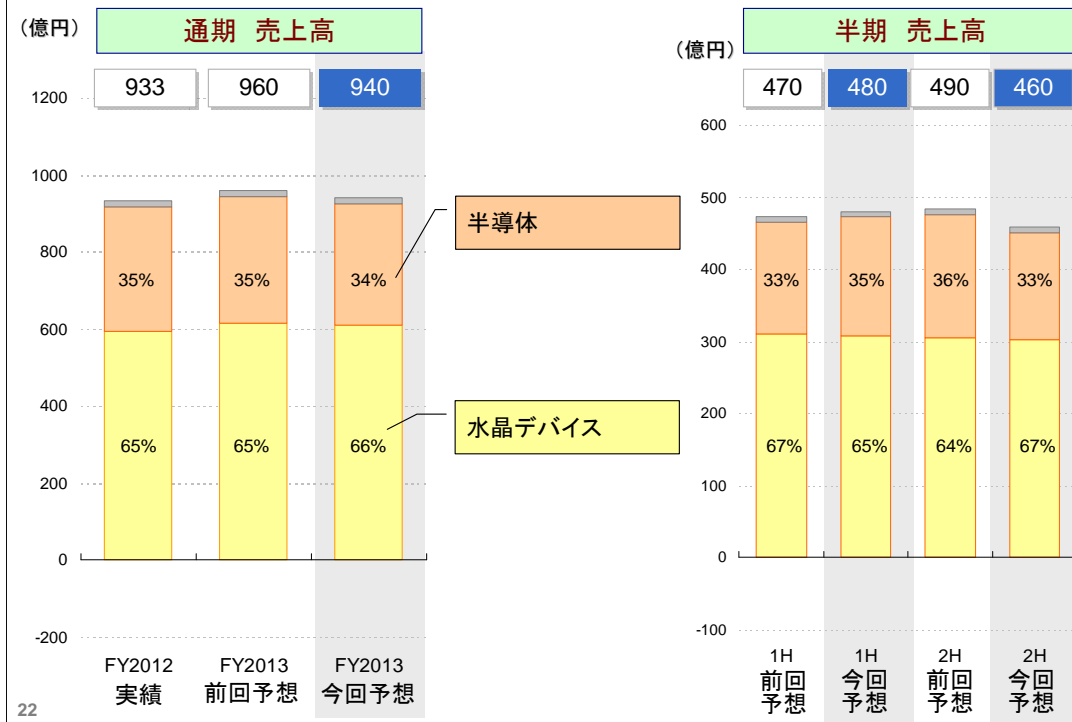
事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高の内訳

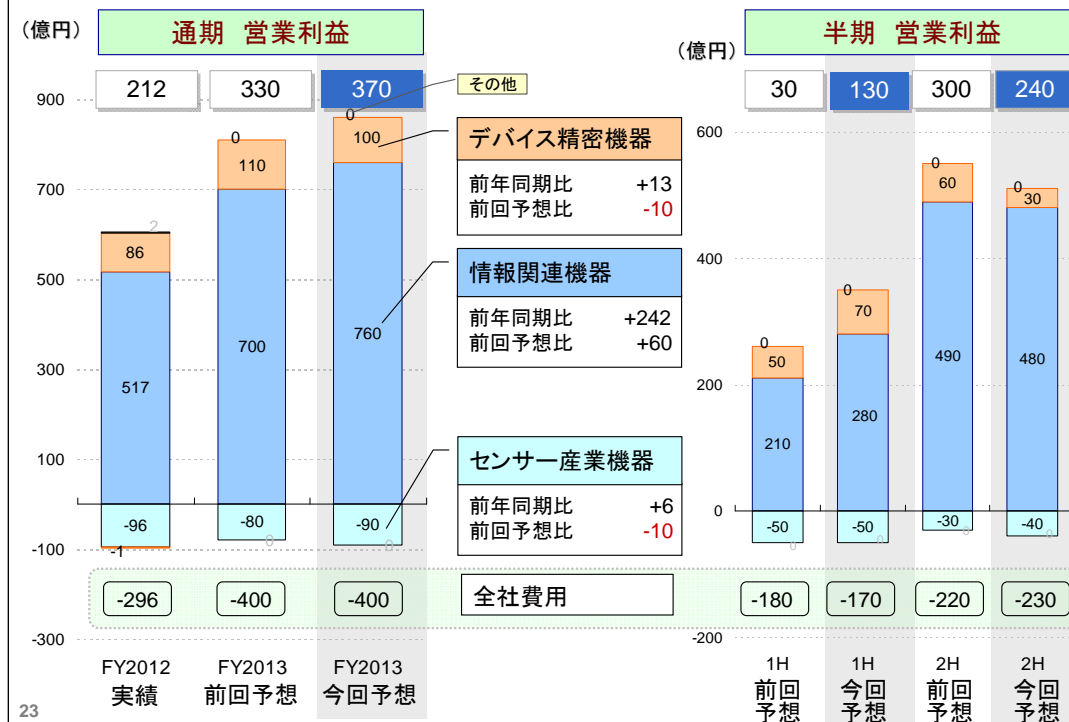
- マイクロデバイスは、スマートフォンやデジタルカメラなどの需要減速や中国における成長鈍化の影響などから、水晶ならびに半導体事業の数量減少を見込む。
- プレジジョンプロダクツは、ウオッチは上期は市場が堅調に推移するものの、下期の見通しを慎重な見方に変更したことから、売上高を見直す。

事業別売上高予想 ▶ マイクロデバイス事業



■ マイクロデバイス事業の製品別売上高予想の内訳

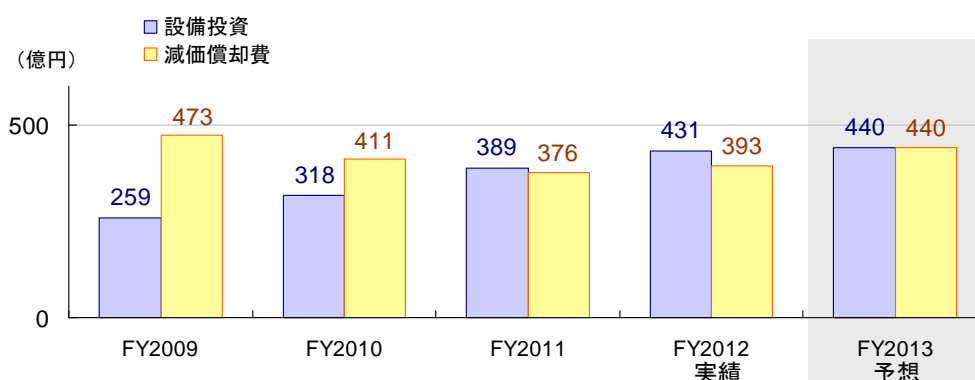
2013年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想と、上期 / 下期別の内訳

- 上期の会社トータルの営業利益については、第2四半期は前回予想並みだが、第1四半期実績が計画を上回ったことから、上方修正。
- 下期は、情報関連機器セグメントは、ビジネスシステムとビジュアルコミュニケーションの事業環境を勘案して、若干の下方修正を行う。
一方で、インクジェットプリンターにおいては、先ほど説明した本体の拡販施策の実施にあたっては、不必要に販売価格を下げることなく、収益性を維持しながら施策に取り組むことから、営業利益は前回予想並みを見込む。
- デバイス精密機器の下期営業利益は、売上減にともない下方修正。
- 以上の結果、下期は会社トータルで下方修正を行うものの、通期営業利益については、前回予想の330億円から370億円に上方修正。

設備投資・減価償却費予想

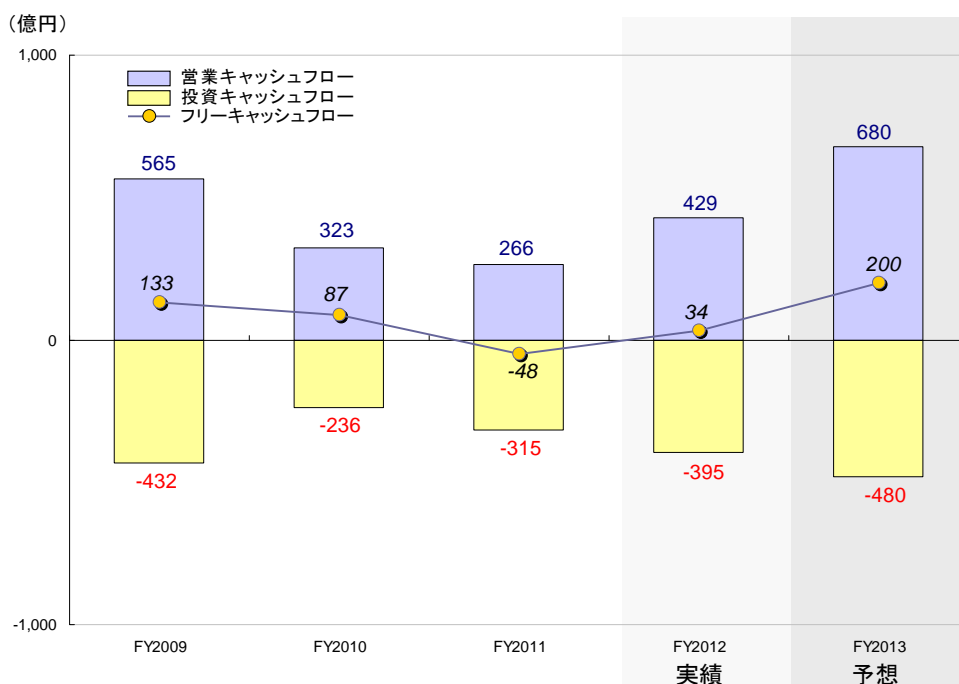


<セグメント別内訳>	FY2012実績		FY2013予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	334	263	300	310
デバイス精密機器	67	80	110	90
センサー産業機器	5	5	10	10
その他・全社費用	24	43	20	30

24

- 設備投資と減価償却費
- 前回予想から、変更なし。

フリーキャッシュフロー予想

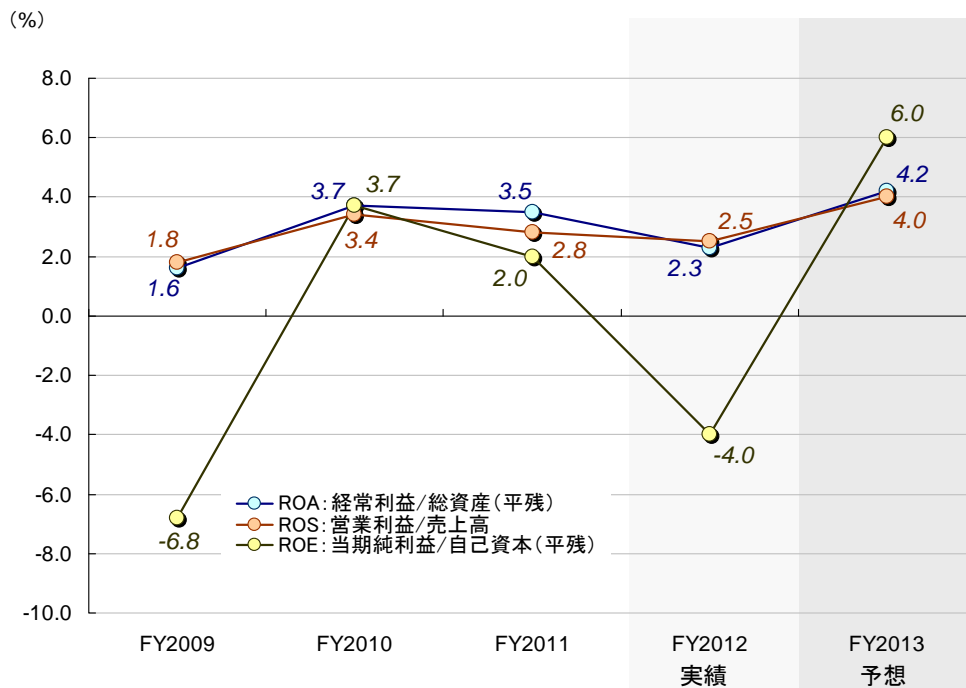


25

■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正にともなって、フリーキャッシュフローは前回の180億円から200億円に見直し。

主な経営指標の推移



26

■ 主な経営指標

ROSは 4.0 %、 (営業利益率)

ROAは 4.2 %

ROEは 6.0%

EPSON
EXCEED YOUR VISION